

東海新報 出版物と協力出版

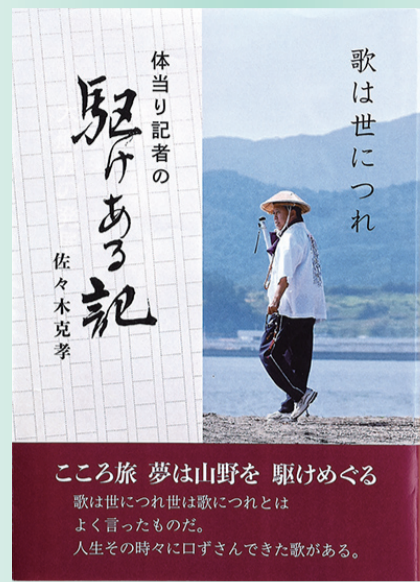
心に残る本づくり

- 地域新聞社だからできる細やかなアドバイス
- 過去記事の引用・検索をお手伝い

◇自分史 ◇写真集 ◇記念誌 ◇会報 ◇フォトブックなど

～自費出版承ります～

詳しくは当社までご連絡下さい。東海新報社 ☎0192-27-1000(代)



著者 佐々木克孝
A5判(タテ21cm、ヨコ14.8cm)
全298ページ
定価 1,500円(税込)
令和3年11月発行

体当たり記者の『駆けある記』

こころ旅
夢は山野を
駆けめぐる

「歌は世につれ 世は歌につれ」とはよく言ったものだ。今、自らの足跡を振り返ってみると、物心“ものごころ”ついたころから口ずさんできた歌があった。それだったら何となく書けるような気がした。この世に生まれ、歩いてきたその時々起きた出来事や感情を歌に重ねてみよう、と思った。

「ブンヤ(記者)とデカ(刑事)は足で稼げ」とよく言われた。「駆けある記」とはブンヤ時代、「体当たり記者」の異名をとった筆者の「備忘録」。内容は自らの人生録はもとより、駆け出し記者時分に突撃取材した「体当たりルポ」をはじめ、気仙の歴史、風物詩などを紹介したコラム「あたりほどの四季」、ライフワークとしている「気仙三十三観音めぐり」など多岐にわたる。



著者 佐々木克孝
AB判(タテ25.7cm、ヨコ21cm)
全196ページ/オールカラー写真
定価 1,980円(税込)
平成25年4月発行

<改訂版> 気仙三十三観音霊場巡礼

『祈りの道』被災地巡礼

気仙三十三観音霊場礼所めぐり「祈りの道」を発刊してから半年後、平成23年3月11日に東日本大震災が発生した。震災による大津波で犠牲になった多くの方々にとって、あまりにも突然の出来事だったことだろう。千年に一度の規模といわれる水魔は、いにしえより地域を護り、心のよりどころとなっている聖域さえも容赦なく奪い去った。海岸近くにあった歴史のある神社仏閣も壊滅的被害を受けた。

「被災地巡礼」を思い立ったのは、震災から一カ月後。とにかく海岸部にあった観音礼所がどうなっているのか、ご本尊は無事だろうか、この目で確かめたかった。目を覆うばかりの惨状に言葉を失う。確認できただけでも、被災した礼所は十カ所にも及んでいた。この夏、礼所をもう一度歩いてみようと思っていた矢先、気仙三十三観音霊場の道を再興しようという支援団体によるプロジェクトが動き出していることを知った。「ひとさじの会」。東京の浅草をエリアに路上生活者に月2回、おむすびを配る活動を続けている若いお坊さんたちだった。今回の紙上企画「被災地巡礼」で取り上げた内容を、初版「祈りの道」と合わせて再発行しようと思ったのは、津波で本が流されてしまったという方々からの声もあったが、被災地住民の“心の寄り添い”。復活を願って、ホームページでの霊場紹介や、巡礼ガイドマップ、礼所の御朱印作成などでご支援いただいた、「ひとさじの会」の方々の熱意に背中を押されたからだ。

本書には、津波に流され、二度と見るができなくなった寺院や風景などの写真もいくつが収録している。この本の力はささやかなものかもしれないが、被害を受けられた方々や、いつか気仙巡礼の道を歩いてみたいと思っている方々のもとに届くことを願っている。



A4判(タテ29.7cm、ヨコ21cm)
2巻セット
I /被災からの軌跡(200ページ)
II /そして、地域は (172ページ)
函入り
写真オールカラー
特別編集版DVD付
「大船渡湾口防波堤倒壊など」
価格 3,300円(税込)
平成24年3月発行

平成三陸大津波記録集第2弾

『鎮魂 3.11』

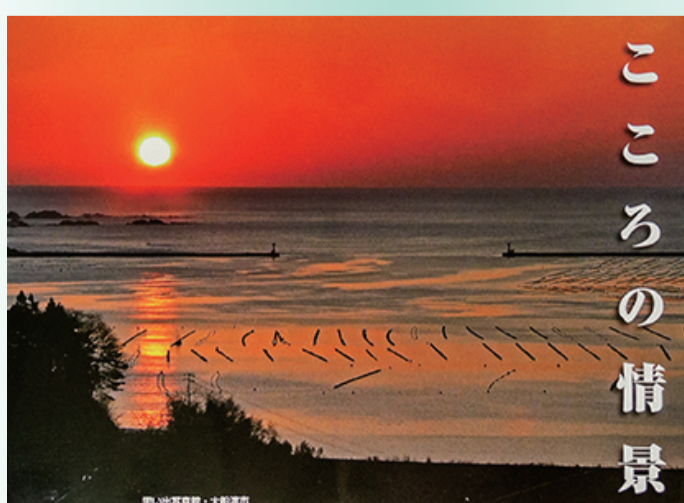
岩手県気仙地域 (大船渡市・陸前高田市・住田町)の被災と復興の記録

平成23年(2011年)3月11日14時46分、三陸沖を震源とする観測史上最大のM9.0という巨大地震が発生、宮城県北部で震度7を記録した。

この地震は東北太平洋沿岸を中心とする500kmにも及ぶ地域に巨大津波をもたらし、およそ1万6000人余りに及ぶ死者を出しただけでなく、未だ行方不明となっている方もいる。この歴史的大災害に遭遇し、その現場に居合わせた者としてかつ歴史の証言者としてわれわれはこの記録を後世に伝える必要性を痛感した。それは今後いかなる大災害に際会しても再びこのように多くの犠牲が出ないよう、この体験によって得た教訓を余すところなく申し送りし、悲惨な体験が絶対に風化しないよう最大限の努力を惜しむべきでないということである。いたずらに拙速に走ることなく、真に後世のための防災の手引きとなるような記録にしようと1年間の準備期間を設けることにしたのはそのためである。

一方、当社の記録だけでは自ずと限度があり、より広範囲な視点からこの災害を検証するためにも、地元だけでなく、関係する多方面からも協力を求め、被災地全体を網羅しようということとなり、広く資料の提供を呼びかけたところ実に多くの方々から賛同を得ることができた。そういう意味で、この記録集は気仙地域全体の共同作品とも言えよう。

この大津波は、自然の持つエネルギーの前に人間などいかに非力な存在かをいやというほど思い知らせたが、その厳然たる事実を忘れることなく、常に大自然と敬虔に向き合うためのよすがとしてこの記録が役立つことを念じてやまない。



A4判(タテ21cm、ヨコ29.7cm)
全128ページ
定価 1,650円(税込)
平成24年8月発行

思い出写真館 <大船渡市・陸前高田市>

『こころの情景』

これまでの日常の取材活動で撮り続けてきたふるさとの風景が記録として残ってる。その一コマ一コマが被災した人々や、復興に向けてボランティア活動をしている人にとって心の支えになれば、との思いからスタート。

『自然がつくった景観を根底から覆すような破壊が、その自然からもたらされた。多くの人命と生活が、そして美しいふるさとの景観が一瞬にして失われてしまったのです』。平成23年7月22日付『こころの情景～思い出写真館』が、こうして始まった。

「失われた風景をもっと見たい」との声にも励まされ、本シリーズは続編を合わせ200回を超えた。

この中には、読者からの提供写真も何枚か掲載。また、その多くは先輩記者たちが残してくれたカメラ目線の積み重ね。これなくして本書は生まれなかった。

1枚の写真には多くの記憶が詰まっている。記憶を語り継ぐ、次代に伝える。それと同じように、未来へ伝えたい失われた景色がある。復興には長い年月がかかると思う。しかし、いつかまた、以前よりもっと美しい風景がよみがえる日が来ることを信じたい。快く写真を提供して下さった方々に深く感謝申し上げます。